平成 23 年度　事務事業評価シート(平成 22 年度実施事業)

整理番号	土み17

事務事業名	駒ヶ谷駅西側整備推進事業	予算科目 会計	1 一般会計
総合基本計画 まちづくりの目標(章)	1 安全・安心、快適で住みやすいまち	款	8 土木費
施策(節)	10 公園・緑地・緑化	項	4 都市計画費
施策の方向	(2) 特色と親しみのある公園づくりの促進	目	3 公園費
関連する計画等		事業	60 駒ヶ谷駅西側整備推進
		作成部署	土木部みどり公園課
		連絡先	072 - 958 - 1111　内線　2430

事業の目的

対象(誰を・何を)
市民

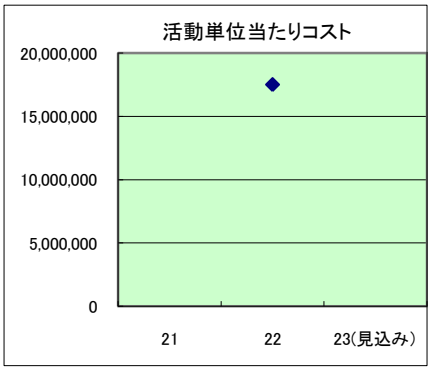
意図(どういう状態にしたいのか)
地域の特性を活かした公園を整備しイベントを通じて、ふれあいと賑わいを創出する。

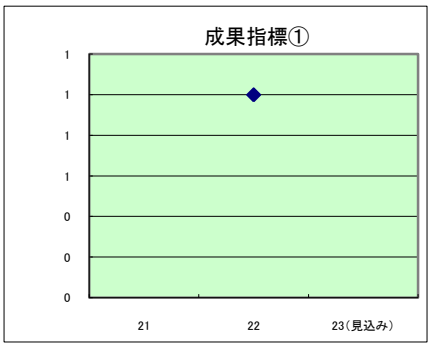
事業の内容
石川以東における豊かな自然と農作物などの特性を活かし、市民がふれあい、集える拠点を整備する事業である。平成22年度は測量設計委託と土質調査を行い、平成23年度より整備事業を行い、平成24年度開設を予定しています。主な整備内容は広場・公園整備　約５，０００㎡　　駐車場整備等　約１，５００㎡　　管理棟　１０４㎡

根拠法令等	羽曳野市公園条例、同施行規則
事業開始時期	☐ 昭和　22 年開始　☐ 明確にはわからない　☑ 平成　☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている
終了年度	平成 23 年度
事業開始時からの状況変化	平成２０年度に土地開発公社から用地を買い戻し、平成２２年度は調査・測量・設計業務委託に着手した。
市民や議会の要望	人の集まる場の整備、周辺地区の市道整備、浸水対策、近鉄踏切の整備
実施手法	☐ 直営　☐ 一部委託　☑ 全部委託　☑ 補助金・助成金　☐ その他(　　)
委託先	☐ 市外郭団体委託　名称(　　)　☑ 民間委託　☐ その他
委託内容	調査、測量、設計、施工

区分			21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込み)
事業費【1】		(千円)		15,095	189,908
人件費【2】		(千円)	0	2,412	2,412
職員数	正規職員		0.00 人	0.33 人	0.33 人
	再任用職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員		0.00 人	0.02 人	0.02 人
	超過勤務(参考)	(時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費(【1】＋【2】)【A】		(千円)	0	17,507	192,320
財源内訳	国費	(千円)			59,208
	府費	(千円)			130,700
	市債	(千円)			
	その他(手数料・使用料等)	(千円)			
	一般財源	(千円)	0	17,507	2,412

活動指標(事業の活動実績)【B】	単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① 設計委託業務件数	件		1	
② 工事件数	件			1
③				
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)		円	17,507,000 円	円
市民１人当たりコスト(【A】／人口)		0 円	148 円	1,630 円





成果指標(事業目的の達成度を測る指標)

	指標名	単位	指標設定の考え方		平成21年度	平成22年度		平成23年度
①	適正設計委託件数(式)	件	次年度整備事業の設計委託が適正に契約期間内に完了した件数	目標		1	達成率(%)	
				実績		1	100.0%	
②	適正整備工事件数(式)	件	平成23年度内に整備工事が適正に完了する予定の件数	目標			達成率(%)	1
				実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	市民が安心して憩え、防災機能も有する公園を確保することは重要である。
	○	○		○				○			

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☑	☐	☐	駒ヶ谷駅西側を整備することにより、隣接する府営石川河川公園への導線が理想的となり、利用者の幅も広がる。また、地域の特性を生かした特色のある公園整備は、地域住民の期待度も大きい。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☑	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☑	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☑	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☑	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☑	☐	☐	
		緊急性が認められる	☑	☐	☐	
	効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☑	☐	☐	設計段階から事業を取り込むために管理運営や環境、安全に配慮し、建材資材コストなどの見直しや工法などを検討し、工事施工に反映できるよう取り組んでいる。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☑	
		人員を削減する余地がない	☑	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☑	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☑	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☑	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない	☑	☐	☐	
	有効性	上位の施策（目的）が明確である	☑	☐	☐	市民がふれあい、集える拠点と防災上の避難地を整備するものである。
		上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☑	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☐	☑	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☑	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☑	☐	計画段階から市の案を示し、地域との情報の共有化を図っている。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☑	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☑	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☑	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☑	☐	☐	適正に設計業務を完了し、平成24年度開設に向けて取り組んでいる。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☑	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☐	☑	

担当部局評価

総合評価

☑ 拡大・充実　☐ 現状維持　☐ 方法改善　☐ 民営化・民間委託　☐ 縮小　☐ 廃止・休止　☐ 完了

評価の理由

地域の特性を活かしたふれあいと賑わいを創出し、安心、安全を確保する防災面にも配慮した公園整備に対する市民の期待は大きく、今後、本格化する整備工事を遅滞なく進める必要がある。

今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）

平成24年度開園に向けて整備を行う。また、整備後の維持管理や管理運営などの効率的運用を検討する。必要があります。

行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☐ 拡大・充実　☐ 現状維持　☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託　☐ 縮小　☐ 廃止・休止　☐ 完了	